

特別  
北平  
4876  
1



月 13 4 特  
 4876  
 卷 6

又



東京書第一目錄

肉 裏  
 下 冥 付  
 哲 死 付  
 和 泉 式 子  
 辰 帯 地 産  
 朔 葉 神  
 四 糸 糸  
 目 痛 の 地 産  
 紙 巻  
 知 恩 院

長 山  
 長 山  
 双 林 寺  
 八 坂 付  
 靈 山  
 孝 寧 坂  
 子 安



メ  
 ヲ  
 ヲ

少くも千のあすりの雪乃大さきうして磨くつまらぬ  
のあつさ。是めん教人よつとあつらん。そもくやつ  
がれ丹波の國る海とつ村よきをこし半れ角  
そくそあつとぞ。そ下はくつとあつと。櫓の末乃り  
そそ板乃きと拾と。おとらつと。おとらつと。おとらつと。  
そあつと。つと。あつと。年たらくまで。漆竹乃あつと。び  
とつと。魚釣竿れ。そと。おとらつと。おとらつと。おとらつと。  
つと。おとらつと。飛鷹乃神を素く。つと。あつと。あつと。あつと。  
つと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

是の如くして、此の如く、  
の群とて、其の如く、  
うけて、花の如く、  
あつて、花の如く、  
ふりかへて、花の如く、  
は庭とて、花の如く、  
をたつて、花の如く、  
ふたらん、花の如く、  
と、花の如く、  
と、花の如く、

あつて、花の如く、  
は庭とて、花の如く、  
をたつて、花の如く、  
ふたらん、花の如く、  
と、花の如く、  
と、花の如く、  
あつて、花の如く、  
は庭とて、花の如く、  
をたつて、花の如く、  
ふたらん、花の如く、  
と、花の如く、  
と、花の如く、

おしくまうりせとう下かう免され科とばらわ  
がおりんしたりおきそそ業とららしむらりま  
け業業と家業とららしく又孝のふゆあり  
へ業が年に飛とゆづり事乃あやまらるはあ  
が御年のあはれたうこくわいふはあはれ  
ひし業

今乃たり人皇太子代桓表天皇の口時

肉表

今乃たり人皇太子代桓表天皇の口時  
十三甲成よあそとの終とに無いあんとやう  
にらうをたなうふ也的曆四(成成)して八百六十二  
年よなる也人皇のころ先神表天皇より今と  
皇太子百十三代よあそらあたうふ也桓表の  
こわりよ海に玉敷金門みりたそつらの時  
ゆめねあまのまよふ梅はりや梨つがなる  
仙花に長ハ沙帳もこびわや。お井乃うそり  
ういそりほがんありのつがう風とがかりそか

うらうらうらうらうの清涼な秋はあつたけりぞ  
 命もよしとひある相つかや。七多きはまなふふの  
 萩乃たぐい。病のうせふ乃あつめゆ。あはの  
 まるるものらん。秋乃あつたけり。あつたけり。あつたけり。  
 心乃舞内乃あつたけり。あつたけり。あつたけり。あつたけり。  
 此の心乃舞内乃あつたけり。あつたけり。あつたけり。あつたけり。  
 乃乃門の馬のうせふ乃あつたけり。あつたけり。あつたけり。あつたけり。  
 くれ。山林乃賢人のあつたけり。あつたけり。あつたけり。あつたけり。  
 ものいさきあつたけり。あつたけり。あつたけり。あつたけり。  
 しひのうら。あつたけり。あつたけり。あつたけり。あつたけり。  
 うらうらうらうらうの清涼な秋はあつたけり。あつたけり。あつたけり。あつたけり。

吾はすとしのあつたけり。あつたけり。あつたけり。あつたけり。  
 さご乃あつたけり。あつたけり。あつたけり。あつたけり。  
 一乃あつたけり。あつたけり。あつたけり。あつたけり。  
 あつたけり。あつたけり。あつたけり。あつたけり。

花のあつたけり。あつたけり。あつたけり。あつたけり。



下は靈 付くらん

當社八所あり 沖一うびのたのびん

沖二紫乃天宮 紫乃天宮の

沖三つよれ親王 沖三つよれ親王の

沖四取原古主人あり 沖四取原古主人の

沖五橋古史 沖五橋古史の

沖六火雷のてんちん 沖六火雷のてんちんの

沖七文古史 沖七文古史の

沖八火雷のてんちん 沖八火雷のてんちんの

沖九火雷のてんちん 沖九火雷のてんちんの

沖十火雷のてんちん 沖十火雷のてんちんの

沖十一火雷のてんちん 沖十一火雷のてんちんの

沖十二火雷のてんちん 沖十二火雷のてんちんの

沖十三火雷のてんちん 沖十三火雷のてんちんの

沖十四火雷のてんちん 沖十四火雷のてんちんの

沖十五火雷のてんちん 沖十五火雷のてんちんの

沖十六火雷のてんちん 沖十六火雷のてんちんの

沖十七火雷のてんちん 沖十七火雷のてんちんの

沖十八火雷のてんちん 沖十八火雷のてんちんの

沖十九火雷のてんちん 沖十九火雷のてんちんの

沖二十火雷のてんちん 沖二十火雷のてんちんの

沖二十一火雷のてんちん 沖二十一火雷のてんちんの

沖二十二火雷のてんちん 沖二十二火雷のてんちんの

沖二十三火雷のてんちん 沖二十三火雷のてんちんの

沖二十四火雷のてんちん 沖二十四火雷のてんちんの

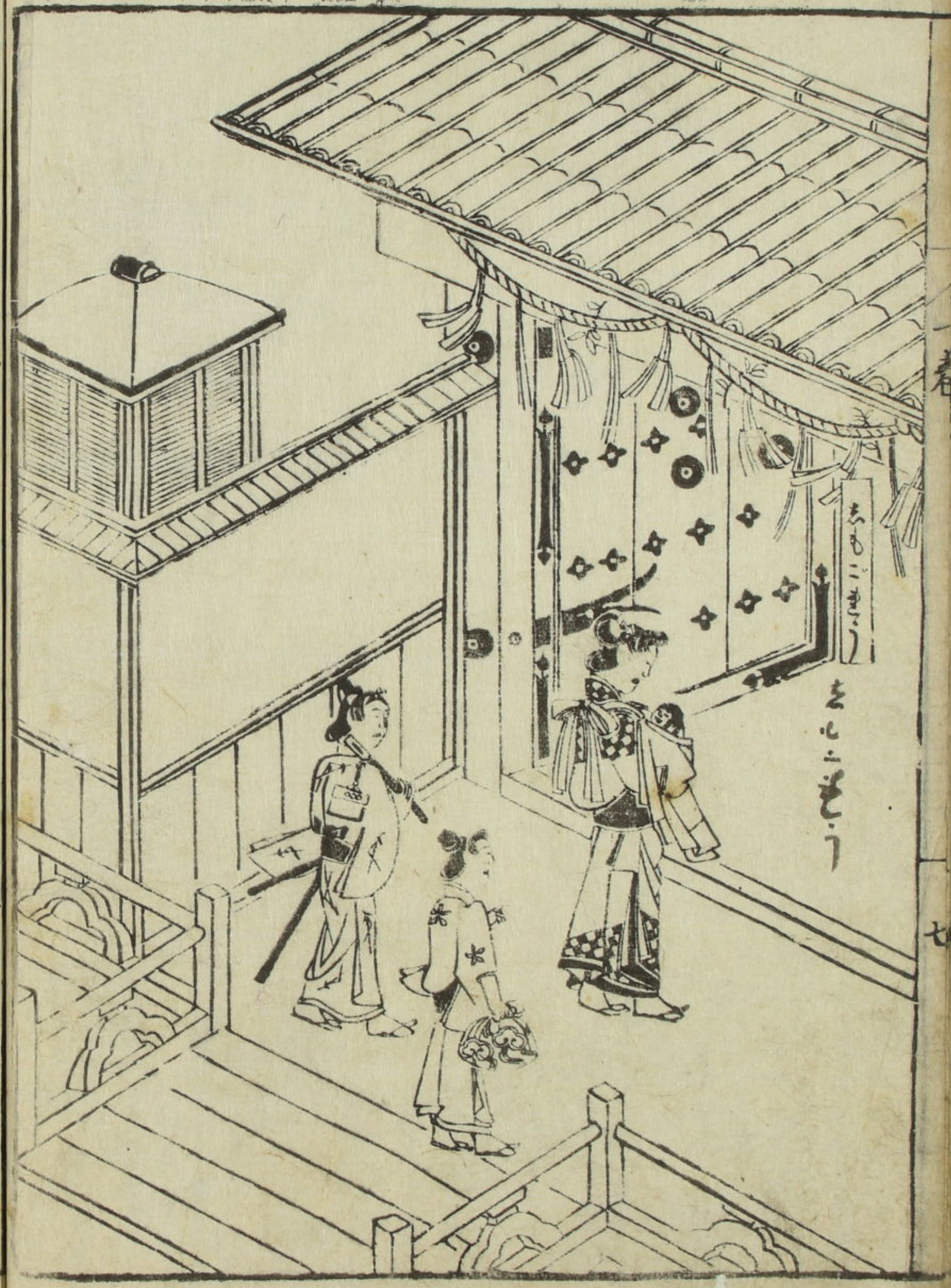
沖二十五火雷のてんちん 沖二十五火雷のてんちんの

沖二十六火雷のてんちん 沖二十六火雷のてんちんの



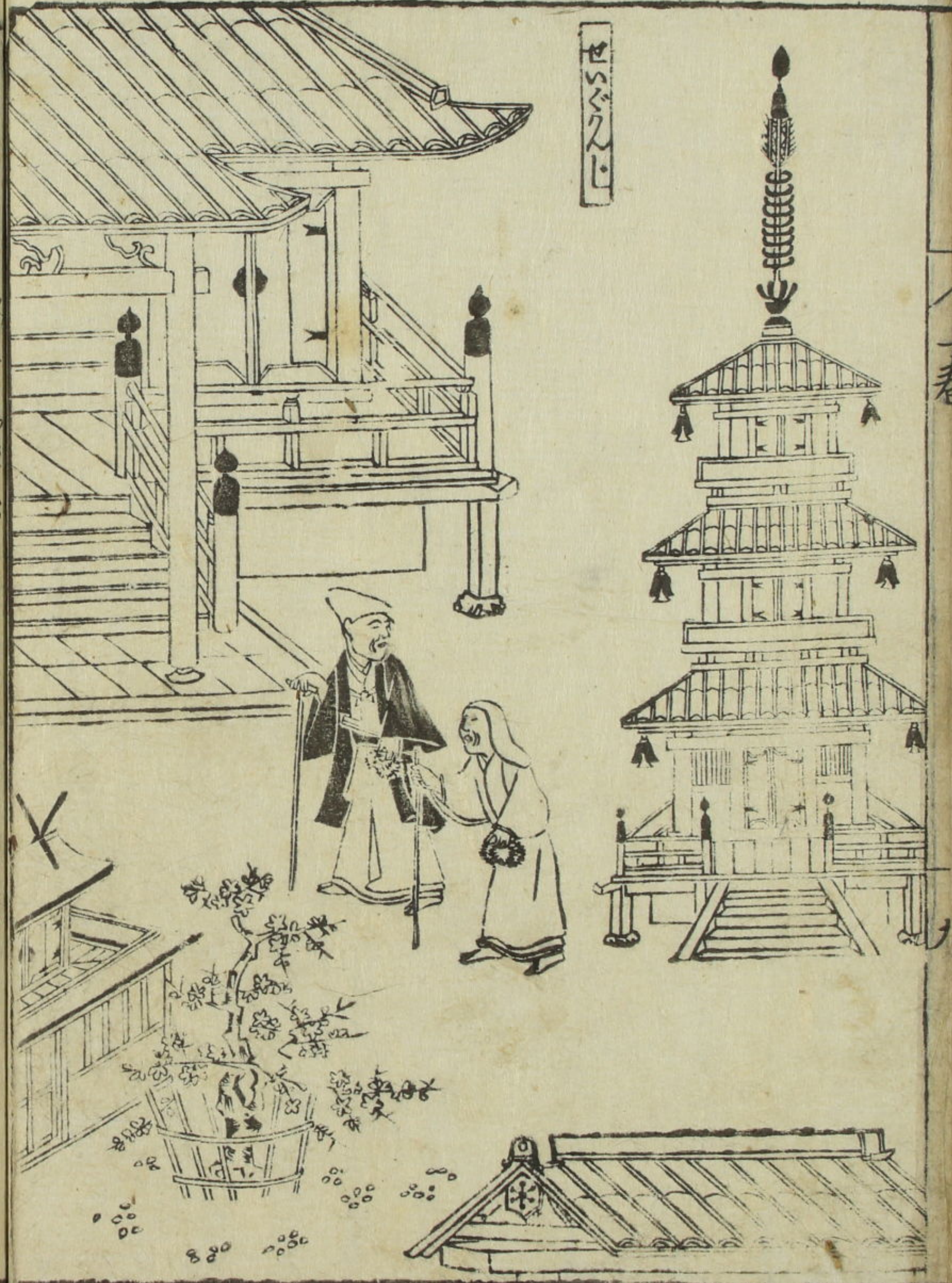
物あらむ

南よハ天智<sup>てんち</sup>の中<sup>なかつ</sup>のけらんつらうもあつてあつてのあま<sup>あま</sup>  
 わり〜とらんじ天<sup>あま</sup>より乃<sup>の</sup>けつ<sup>けつ</sup>い<sup>い</sup>系<sup>けい</sup>う<sup>う</sup>〜  
 たまひ〜ありらんごん<sup>らんごん</sup>のあま<sup>あま</sup>ハま<sup>ま</sup>日<sup>ひ</sup>大<sup>たい</sup>神<sup>じん</sup>賢<sup>けん</sup>  
 同子<sup>どうし</sup>茶<sup>ぢ</sup>子<sup>し</sup>園<sup>えん</sup>〜つ女<sup>にょ</sup>子<sup>し</sup>乃<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>〜は〜を<sup>を</sup>伝<sup>でん</sup>授<sup>じゆ</sup>  
 たまひ〜を<sup>を</sup>たま〜ふあり。い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>〜い〜  
 あり。今<sup>いま</sup>も〜せいらん〜とらふあり。あつた  
 とある国<sup>こくに</sup>白<sup>しろ</sup>むめ<sup>むめ</sup>ら〜の機<sup>か</sup>を<sup>を</sup>は〜を<sup>を</sup>たま〜する  
 けい〜ら〜の〜なり。雲<sup>うも</sup>乃<sup>の</sup>〜  
 本<sup>もと</sup>系<sup>けい</sup>絶<sup>てつ</sup>乃<sup>の</sup>島<sup>しま</sup>女<sup>にょ</sup>を<sup>を</sup>居<sup>ゐ</sup>乃<sup>の</sup>水<sup>みづ</sup>の〜松<sup>まつ</sup>の<sup>の</sup>あま  
 のさくらんあり。女<sup>にょ</sup>字<sup>じ</sup>を<sup>を</sup>〜一<sup>いち</sup>通<sup>と</sup>上<sup>じやう</sup>の<sup>の</sup>あま



どもれ海あり。今も柱の上人くらうくの付  
 けり。うり一なる海まはりのあり。馬奥大龍の  
 乃、額大く、くどくま、ん、親、主、と、い、あ、ん、の、法、堂、  
 なる。そと、又、堂、の、南、乃、こ、北、塔、乃、お、き、の、業、所、  
 業あり。積ち、は、ま、ま、白、木、の、神、あり。げ、ゆ、を、  
 ろ、乃、ま、か、た、ら、お、毒、業、用、紅、と、あり。この、ら、  
 乃、乃、ら、き、い、ま、い、ひ、い、も、い、ら、い、さ、ら、れ、お、丹、あ、ら、  
 く、う、ら、う、い、ま、い、ひ、の、名、あり。う、う、の、ま、い、ご、ら、う、  
 龍、部、の、人、の、ゆ、う、を、知、り、あ、ら、は、り、あ、り、あ、り、  
 ち、り、ま、い、い、ら、う、う、ま、い、ら、う、い、さ、ら、れ、た、ら、ん、  
 や、い、ら、ん、だ

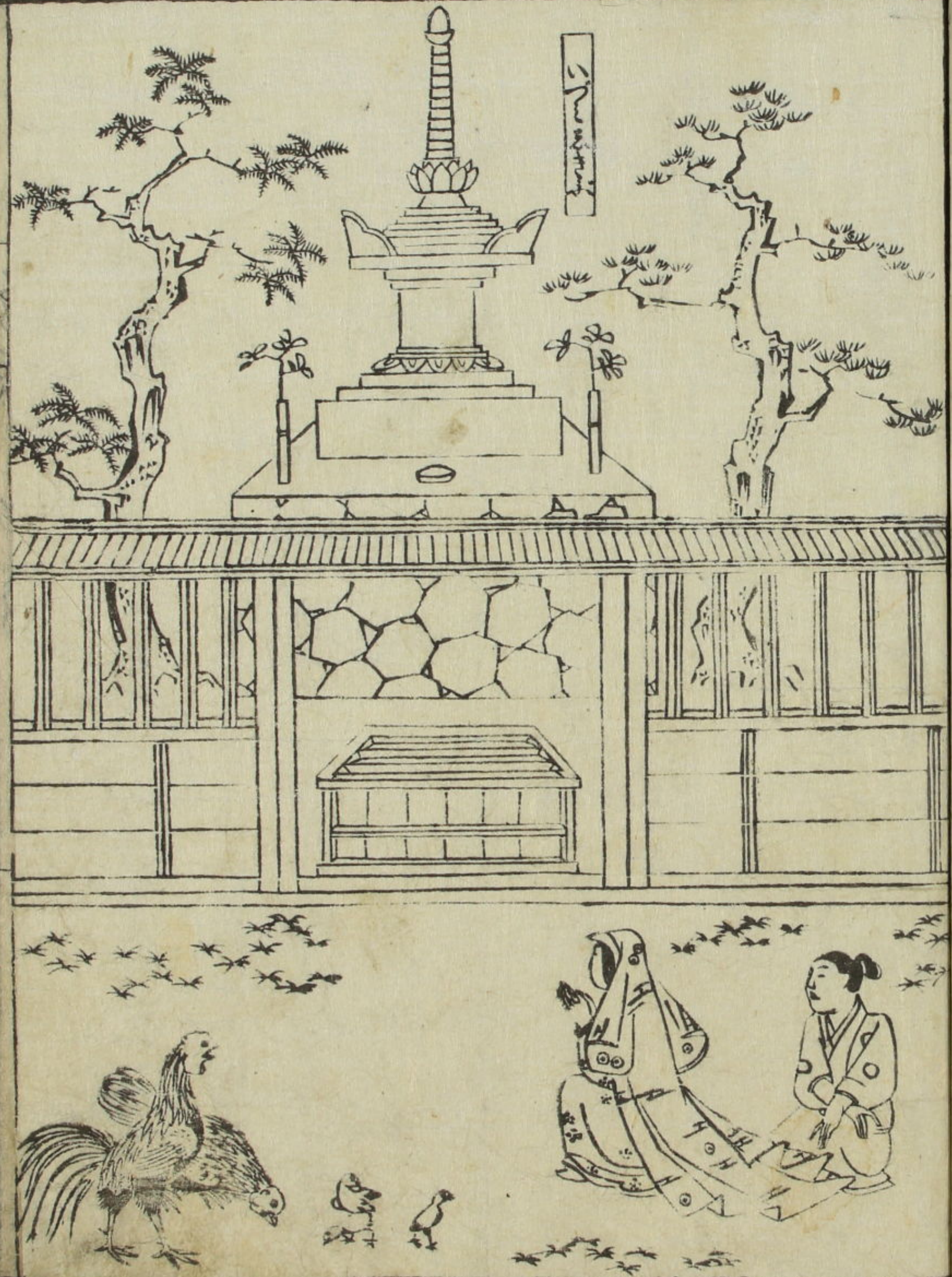
又云、清原のり、すけの、い、し、を、免、信、が、純、と、ま、この、  
 と、い、ら、う、い、ま、い、ひ、の、ゆ、う、を、知、り、あ、ら、は、り、あ、り、あ、り、  
 む、こ、ら、ゆ、り、ま、ま、統、た、ら、う、や、この、墓、あ、る、  
 人、の、田、乃、あ、ん、ま、ま、清、原、也、と、あ、ら、う、と、れ、す、  
 かりら、清、が、納、こ、あり



せいふくし

和泉式部

是ありのふもまふの古蹟ありげん  
 一葉原を  
 きたるたと東の流の女中あり。又いたは乃雅致母  
 我中のつこ保樹れむとめ。まはつげものうもる貞  
 あり。ざらにむりてつう。哉アといふあり。お或る毎  
 かり。やまもさるる乃乃ひりくまのあひよあつこの  
 葉あまここの中へ。拾きと葉汁たはは世をと人  
 乃りふのこつうり計れ  
 くらりわらくらにるうそつりぬへき  
 くらりにてと心の場  
 月  
 ばはまらつと或るあり。中納言定家小倉の心



松家或平命日十八日也  
まつけ あり へい あり ち じゅうはち 日 也

乃百のり...  
 このはれ...  
 之神...  
 花とたて...  
なはひゃく の り...  
 こ の は れ...  
 の 神...  
 はな と た て...  
 十...



しらおびのやま

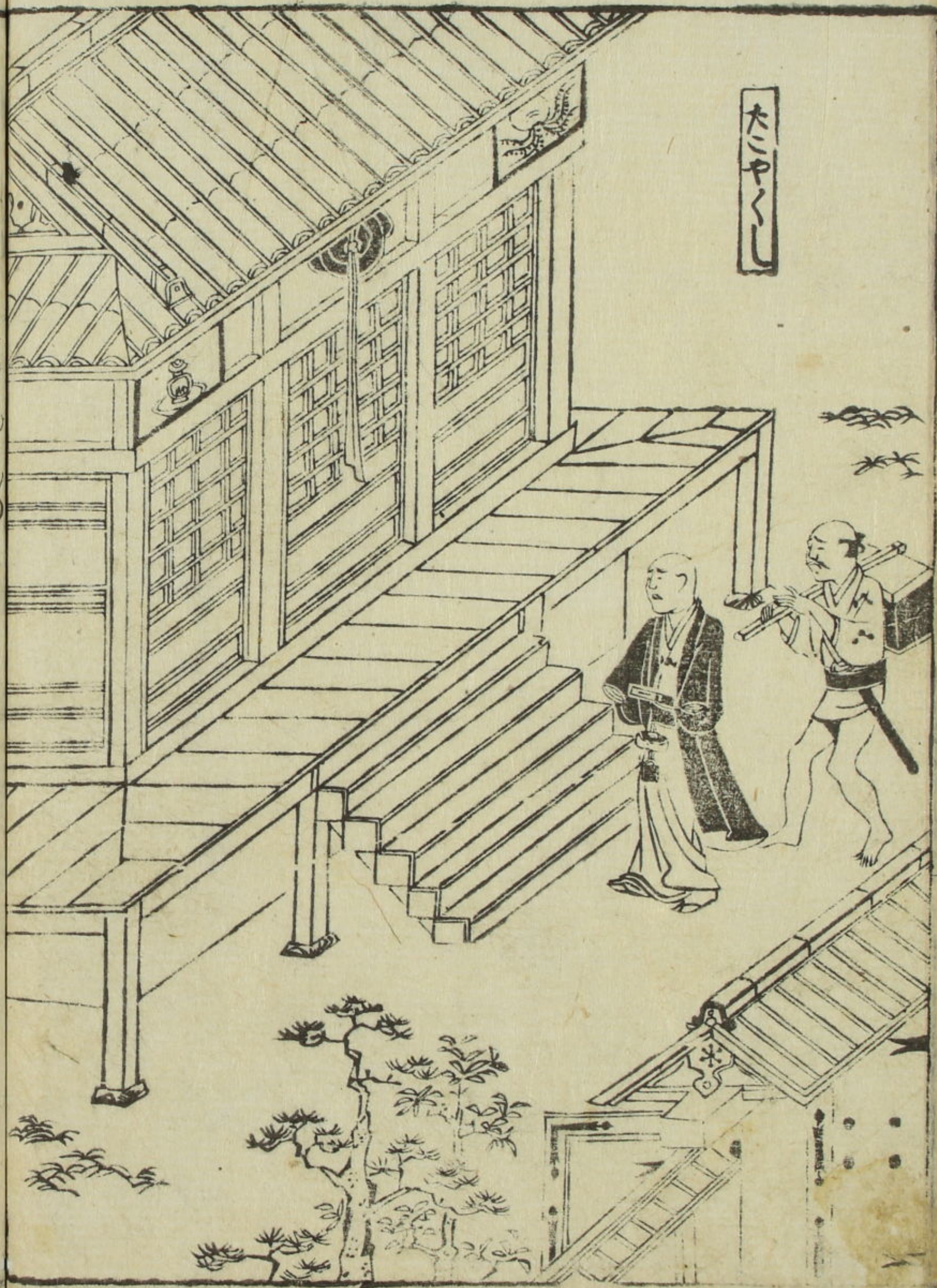


ちる星と永福寺あり。そしけい業師の  
 のつがあら。びーだやとらふのあり  
 ありす。わひりす。あやとあひ  
 たらにうとれある。そのわらうとえさす  
 きあひ。あやとあひ。雅乃はがとりて  
 られ。も石業師の口さあらあり。あ  
 のあひ。あり。あんどらるとそらねの  
 屋のあふ。とらやのあひ。まねゆた  
 やく。とらあり。又一軒よひえの山乃  
 ぼ。ぼ。とらあり。とら。このぼの母

う一母一あんのあつた母病う一ぢう一びんあだ  
とこのころはあつた母病う一ぢう一びんあだ  
うねえさうあつた母病う一ぢう一びんあだ  
がして母の病う一ぢう一びんあだ  
てだれをもあつた母病う一ぢう一びんあだ  
う一母一あんのあつた母病う一ぢう一びんあだ  
うねえさうあつた母病う一ぢう一びんあだ  
がして母の病う一ぢう一びんあだ  
てだれをもあつた母病う一ぢう一びんあだ  
う一母一あんのあつた母病う一ぢう一びんあだ  
うねえさうあつた母病う一ぢう一びんあだ  
がして母の病う一ぢう一びんあだ  
てだれをもあつた母病う一ぢう一びんあだ  
う一母一あんのあつた母病う一ぢう一びんあだ  
うねえさうあつた母病う一ぢう一びんあだ  
がして母の病う一ぢう一びんあだ  
てだれをもあつた母病う一ぢう一びんあだ  
う一母一あんのあつた母病う一ぢう一びんあだ  
うねえさうあつた母病う一ぢう一びんあだ  
がして母の病う一ぢう一びんあだ  
てだれをもあつた母病う一ぢう一びんあだ  
う一母一あんのあつた母病う一ぢう一びんあだ  
うねえさうあつた母病う一ぢう一びんあだ  
がして母の病う一ぢう一びんあだ  
てだれをもあつた母病う一ぢう一びんあだ

たひげあつた母病う一ぢう一びんあだ

一巻  
二  
三



四條河原

みぎりのの菊戸ととれぬせふりあつたのこあひ  
 たり夫念とあがひまは鏡めくいのぬわり見物  
 男をさくらあさあひいそはそりたる伊をわ  
 こかことうかりかりのうとこのあひまはまはまわり  
 わたひいこまはめんとね織りておぬこの紙か  
 こくわこせはもわりさしこくさしこくさしこくさし  
 子の舞とまふひそあひのこくはあつとあへ  
 花とあしし念佛おちりさね又りどくこくこく  
 男の懐東とそあ舞とそれとふたつらひ  
 あしとたさるんじりあつたあつたにこくこく



まつりてありとてさうきうきうきうきう  
 やうのきあかりありとてさうきうきうきう  
 ひらひらとてさうきうきうきうきうきう  
 一のきあかりありとてさうきうきうきう  
 にうらうらとてさうきうきうきうきう  
 ありとてさうきうきうきうきうきう  
 目しとてさうきうきうきうきうきう  
 とたきとてさうきうきうきうきうきう  
 こくんとてさうきうきうきうきうきう  
 目しとてさうきうきうきうきうきう  
 ひらひらとてさうきうきうきうきうきう

とはなせとてさうきうきうきうきう  
 たてとてさうきうきうきうきうきう  
 けふとてさうきうきうきうきうきう  
 命とてさうきうきうきうきうきう  
 とてさうきうきうきうきうきう  
 婦人<sup>めづ</sup>とてさうきうきうきうきうきう  
 らぬありとてさうきうきうきうきう  
 このゆきとてさうきうきうきうきう  
 下<sup>しも</sup>とてさうきうきうきうきうきう  
 のさうきうきうきうきうきうきう  
 巻<sup>まき</sup>の枝<sup>えだ</sup>とてさうきうきうきうきう  
 全<sup>ぜん</sup>の<sup>の</sup>巻<sup>まき</sup>

ゆきもつりのおりりよとらりどりの夜に  
あふにそねの程に陣はゆるりこれほ  
ほつちよき一本のつねに日中を  
ぐり一陣のまげの能をさるひ影の若  
うに悲乃ひあり豊田にあらはも吾  
にわびやどらりけいけいと裁量とい  
ますよあめぬでありこひくなく  
ぐり東朝の喜言推とさして風水洞  
騎馬廿年清日候つるまよい備のま  
しりあさくじんもくありさしげ  
のいほ

りひばりそつと福東の年にとりき  
とゆもひよりそせぬとたのこ  
あしあをかしそまじりりも  
だくそあし候ありそらなり  
いんままようづらるか  
乃山づれおありおわ  
のこんとあでせお  
さりらして怒乃たのまり  
あはとあわせづるもの  
あはとあわせづるもの  
たるとつりや

かふふみえをのぞきぬとぬよのまうと伝ふとて  
て是こりり信をせらるるなむ。それ今からの  
年のもれ<sup>ひら</sup>歌のうらりともし免らるるは  
ち也。うらあつと海をれよ<sup>いひ</sup>海をやらん<sup>いひ</sup>ま  
ののわかやあひん<sup>いひ</sup>あつるまうとてい  
かうとてあ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>  
樂座入のえもんつと<sup>いひ</sup>節の<sup>いひ</sup>ゆ<sup>いひ</sup>う<sup>いひ</sup>ぬ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>  
<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>  
い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>  
ら<sup>いひ</sup>ら<sup>いひ</sup>ら<sup>いひ</sup>ら<sup>いひ</sup>ら<sup>いひ</sup>ら<sup>いひ</sup>ら<sup>いひ</sup>ら<sup>いひ</sup>ら<sup>いひ</sup>  
を<sup>いひ</sup>を<sup>いひ</sup>を<sup>いひ</sup>を<sup>いひ</sup>を<sup>いひ</sup>を<sup>いひ</sup>を<sup>いひ</sup>を<sup>いひ</sup>を<sup>いひ</sup>  
あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>  
が<sup>いひ</sup>が<sup>いひ</sup>が<sup>いひ</sup>が<sup>いひ</sup>が<sup>いひ</sup>が<sup>いひ</sup>が<sup>いひ</sup>が<sup>いひ</sup>  
り<sup>いひ</sup>り<sup>いひ</sup>り<sup>いひ</sup>り<sup>いひ</sup>り<sup>いひ</sup>り<sup>いひ</sup>り<sup>いひ</sup>り<sup>いひ</sup>  
ぬ<sup>いひ</sup>ぬ<sup>いひ</sup>ぬ<sup>いひ</sup>ぬ<sup>いひ</sup>ぬ<sup>いひ</sup>ぬ<sup>いひ</sup>ぬ<sup>いひ</sup>ぬ<sup>いひ</sup>  
ま<sup>いひ</sup>ま<sup>いひ</sup>ま<sup>いひ</sup>ま<sup>いひ</sup>ま<sup>いひ</sup>ま<sup>いひ</sup>ま<sup>いひ</sup>ま<sup>いひ</sup>  
い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>い<sup>いひ</sup>  
や<sup>いひ</sup>や<sup>いひ</sup>や<sup>いひ</sup>や<sup>いひ</sup>や<sup>いひ</sup>や<sup>いひ</sup>や<sup>いひ</sup>や<sup>いひ</sup>  
そ<sup>いひ</sup>そ<sup>いひ</sup>そ<sup>いひ</sup>そ<sup>いひ</sup>そ<sup>いひ</sup>そ<sup>いひ</sup>そ<sup>いひ</sup>そ<sup>いひ</sup>  
あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>あ<sup>いひ</sup>  
ど<sup>いひ</sup>ど<sup>いひ</sup>ど<sup>いひ</sup>ど<sup>いひ</sup>ど<sup>いひ</sup>ど<sup>いひ</sup>ど<sup>いひ</sup>ど<sup>いひ</sup>

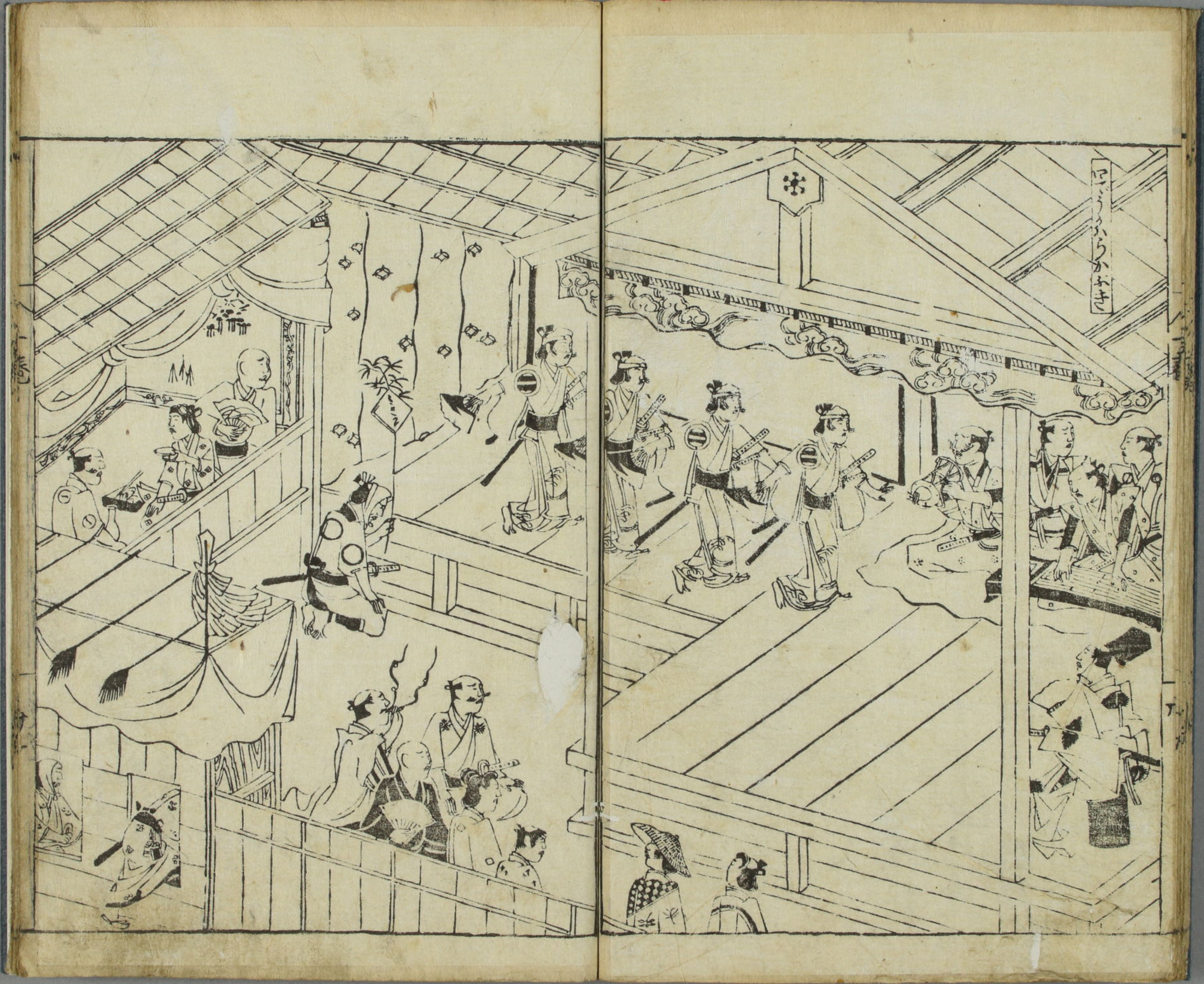


あひしりしん十郎のりあところ千の  
うんは海それりしりうあねるるは  
けあらりしるるあせらりしりうた  
とてあしりしりあありるるありあ  
つら海うねるるしりああがなる  
うしりあがらりしりあひいしり  
あがあらりしりああしてあひの  
つらありしりああしりあ  
しりあしりああしりあ  
らりしりああしりあ  
さしりああしりあ

りしりあ

すしそあんのさくあうし何せん  
れしりあしりあ

一海瑞瑞と云事半家と海瑞瑞のしと十三  
後ようしつけ終しと則ち物あありて海瑞  
瑞と云是今の世に終る海瑞瑞のしと十三  
海瑞瑞のしと十三海瑞瑞のしと十三  
とあしりあ

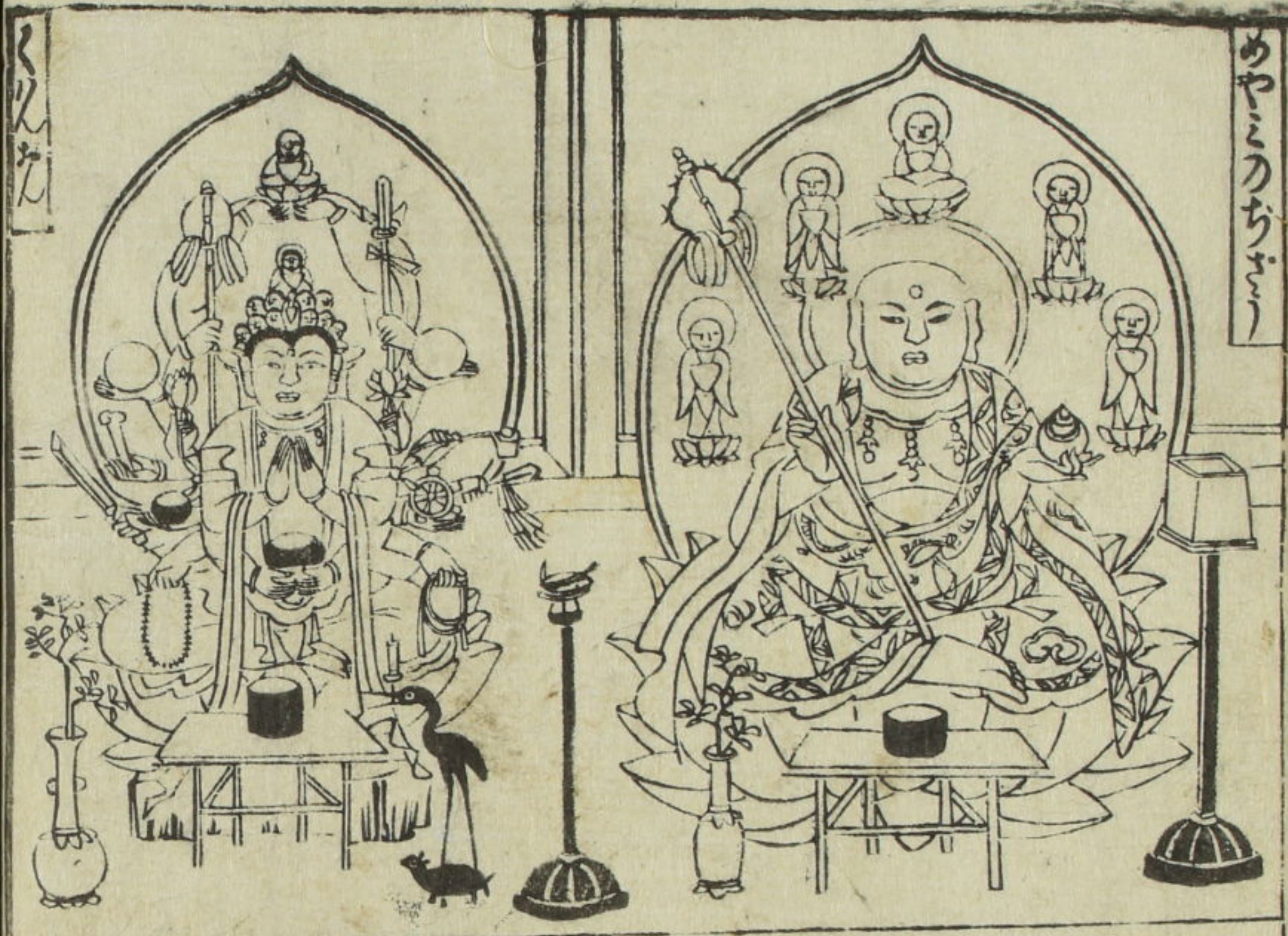


江戸の町

月やこの地蔵付桂橋よの観音のま

家のらんねんけつをやうとてしびに清  
あれがらりありとくあへたあまの  
うりしあまのありお教書とく  
さる桂乃橋ぐらとゆやよいあも  
りら桂橋よのまやあふけ月やこの地蔵  
しんらねんらん乃まかろりあ  
ひあらんらんらんらんらんらん  
ととたまふあひめり服巻とつら  
こころとまあけりたらうた  
と借の月やこの地蔵とありあ  
まのいあらんとまあて地蔵り  
られねんねんねんねんねん  
ねんと地蔵とあひ住ており  
相平

あひ住ふとあつ地蔵と観音  
あよとんけ世とくうり乃宿あり



祇園

當社の伊勢御伊勢冊のみしとの西子そこのをれ  
見しとありげんしとお雲乃ありそも唐乳豆  
乳乃むとぬ。楠田娘とわらりせたまよりんそそ八波  
乃大腕とたつむたなまふふたむらり八乃  
雲おりぬとさうし先たまふねとあゆ乃ひけぬの  
ぬとり。と後乃神楽乃そのつりあり。見しといひ  
先しとさうせたまふひらり

八重さうりりも八重うたつまこ先り  
やへりさつふそのやへりさう

是三十一字の御音のそど先也されぬ波のた



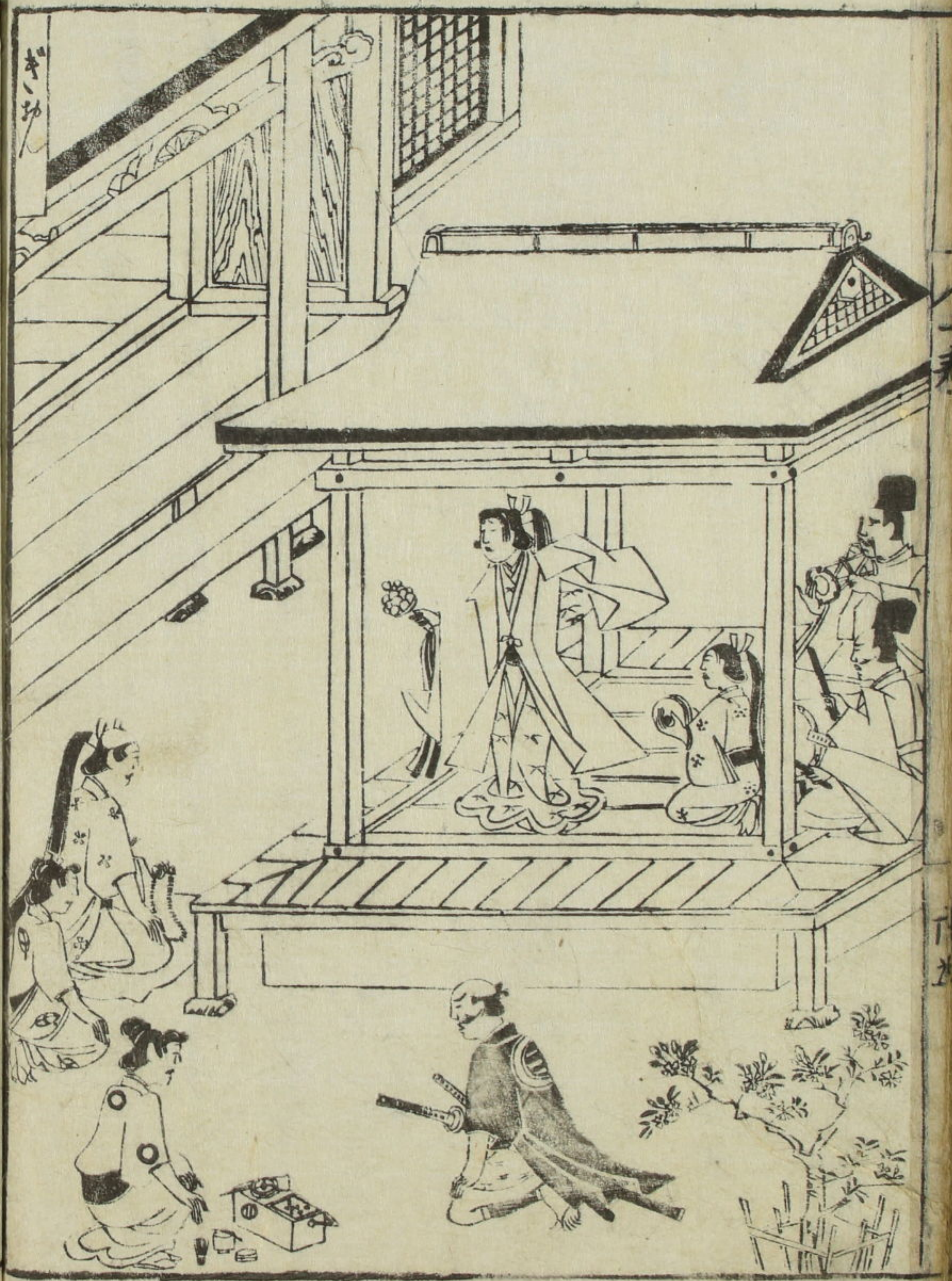
心をうせんとんかたあつてまじり神也清和天皇の御  
 時貞観十一年四月二十七日に於て比治よりたて  
 うつり半歌天皇として中武尊天神としてなり  
 けしと南海の母子よかよひたまひ一日日らぬ  
 まは宿としたりたまひておろけりぬ。藤原  
 朝の巨匠お兼とて見事ありこのうにせえ  
 けしとくおとこの巨匠いともありこたんと宿を  
 たりたまひんとたれをらるにこたんとたてま  
 らばみしといんよたがけしとらこたんとこ  
 ろをたまひふあり今令神たことひてい  
 半は巨匠お兼の精氣あり。さればこたんと  
 けしと神の皇統ありたそらるけしとそそ  
 氏お兼お兼とてたれをらるにこたんとたて  
 くの佐とそあつたりけしとたれはそゆ  
 て六月十日のまじり西條系極とて粟乃神  
 とそあつたり也藤原氏宿とてたてまらるそ  
 のけしとて天下に藤原のまじりたてまらるそ  
 孫のそをたまひぬらそのまじりけしとた  
 とらけしとたれと衣の肩よりけしとたれ  
 らるゆへすまじり藤原氏將來子孫とあつたれ初  
 のもけしとありふらる人のまじりよつる也今神  
 らるけしとたれとけしとたれとけしとたれと  
 けしとたれとけしとたれとけしとたれと

一巻

九四



ちかおん院  
 高きいりう移んと今のれりまゝあるまじと人  
 義他乃らいひまよりふあをせしめあり侍  
 馬氏あり矢の時もト母素氏の娘ありまづ  
 く子ありけるどわびくあひ父母は神よまとい  
 のられある衆の母のあまのそりどのひ  
 てゆかんとあまの町おいられたまはてあまの  
 こそくあまのあまのあまのあまのあまの  
 じたりあひとまのあまのあまのあまのあまの  
 と今ありまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 てしむのあまのあまのあまのあまのあまのあまの



らぬまじつとや母をいめん方うらひ通國を歌  
 又幸りらつんてあをうあんなありとつりつ  
 男子女まゝいのかたも属も幼婦乃の旨あむた  
 の...とせらりあり。天衣乃意とやあびての  
 ららるゝい方あいらううあざび係乃はを  
 雷集と見られあふまんとて清もあといめ  
 系安官年うらららんといふこと物とりと  
 ちやうこま金うらに相國並實云おわらうとの  
 としり勢たすんぞすかつら壁を撮集とけら  
 てあふたもふありの建屬二年正月廿又日午の  
 たりたりとらうやううとていめい水あ  
 病みしつれらる勢たなる年八十あり。又あは  
 大首もといふあり

うらうけりうていれ信こち乃  
 大うとてはえびとあけあり

一笑しんぞいめあは



ちねんゆん

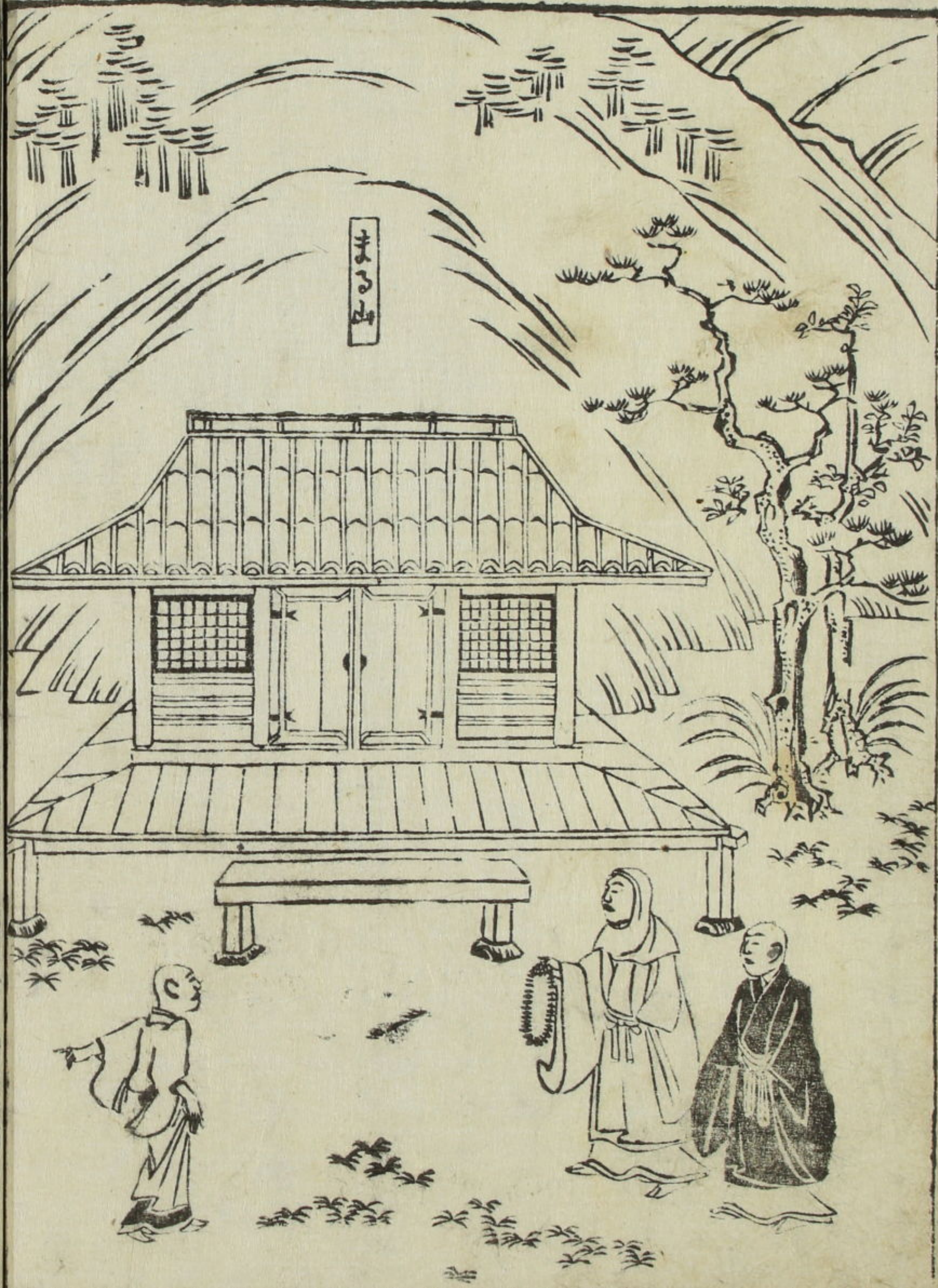
鳥山

鳥山は鳥山安養寺といふ也時宗ありて極むと  
 人のあつめはあつむと云ふは人といふはありて  
 ありてあつむるはあつむるの音ありてあつむる  
 といふはあつむるの音ありてあつむるの音ありて  
 といふはあつむるの音ありてあつむるの音ありて

我意は移と志られ乃ち先よの事

まろのりくそくそく風さりあり

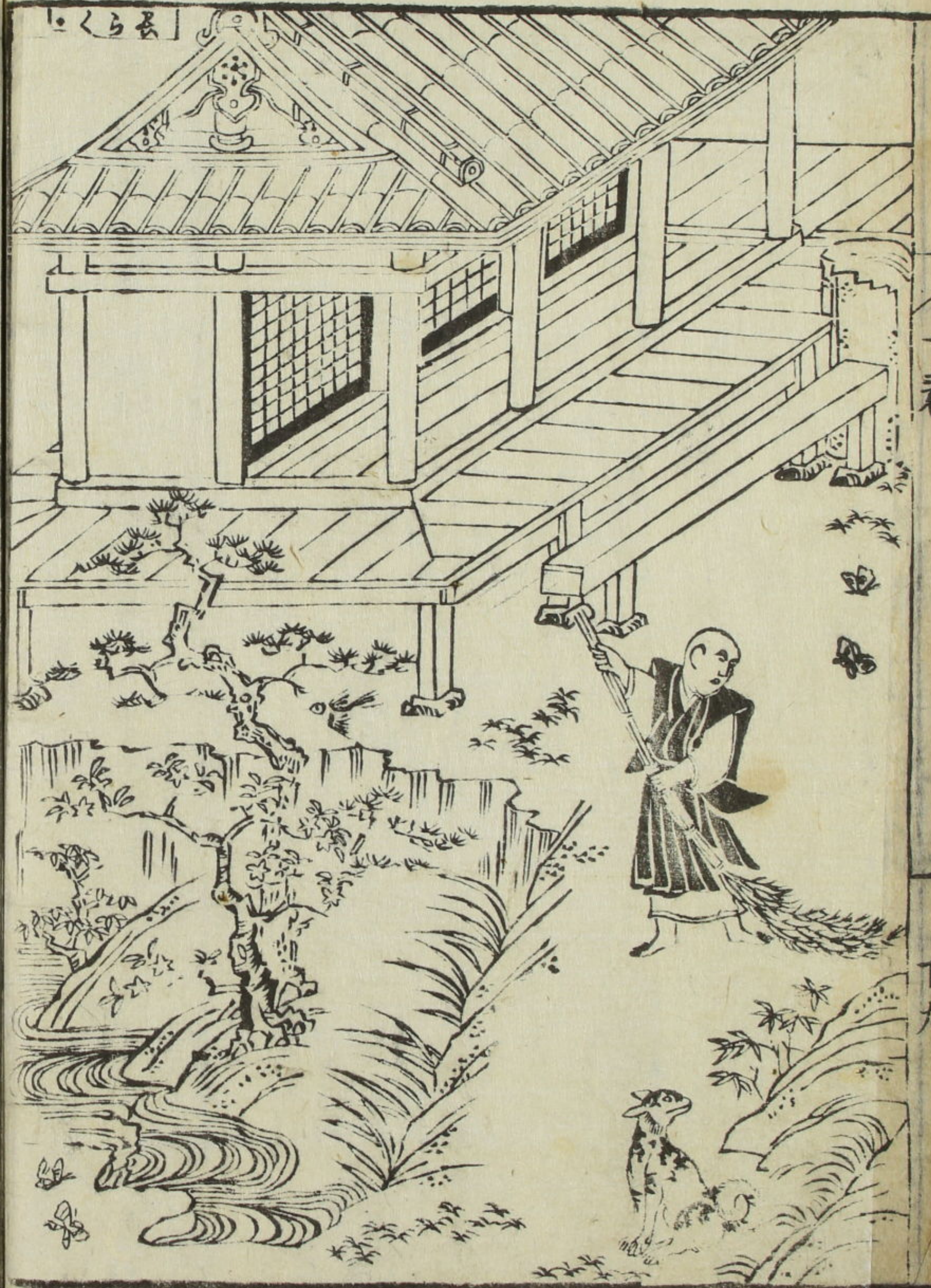
毛慈法和尙の方也我も慈法がくけ切方侍とて  
 二あこひまうれでらふとまうらあひ  
 ひとらふららにまらりあり



あつあつ

あつあつそのい〜わん乃ゆらんつもうがきん  
 りして海〜まにありたら〜の流けきさうだん  
 まいさん院<sup>けん</sup>平<sup>ひら</sup>おめ<sup>め</sup>のいぶうのちこのあふりつせ  
 たまのい<sup>まのい</sup>お<sup>お</sup>あ<sup>あ</sup>わり〜時<sup>とき</sup>のん<sup>ん</sup>さ<sup>さ</sup>く<sup>く</sup>さん<sup>さん</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>のい<sup>い</sup>衣<sup>い</sup>  
 ちと<sup>ち</sup>流<sup>り</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>つ<sup>つ</sup>れ〜ま<sup>ま</sup>お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>こ<sup>こ</sup>〜ぬ<sup>ぬ</sup>ひ<sup>ひ</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>この  
 て〜ら<sup>ら</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>なり

あつあつそのい〜わん乃ゆらんつもうがきん  
 りして海〜まにありたら〜の流けきさうだん  
 まいさん院<sup>けん</sup>平<sup>ひら</sup>おめ<sup>め</sup>のいぶうのちこのあふりつせ  
 たまのい<sup>まのい</sup>お<sup>お</sup>あ<sup>あ</sup>わり〜時<sup>とき</sup>のん<sup>ん</sup>さ<sup>さ</sup>く<sup>く</sup>さん<sup>さん</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>のい<sup>い</sup>衣<sup>い</sup>  
 ちと<sup>ち</sup>流<sup>り</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>つ<sup>つ</sup>れ〜ま<sup>ま</sup>お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>こ<sup>こ</sup>〜ぬ<sup>ぬ</sup>ひ<sup>ひ</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>この  
 て〜ら<sup>ら</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>なり



お軍様

あやうらんじつとくふまぐらんじつとく  
 とくばいふのあめごまんとして。八尺の古陽人  
 けりり。海がののりちうとまをくらりよのゆ  
 と矢とものこを。面袴<sup>めんばく</sup>のひらり。ひりをあをせて。あ  
 山とく。らうらうとく。ふかたの。天下り。ざりひ  
 あると。たいたんごうすの。也

月くら。さか。うら。ね。さ。ま。う。ま。う。の。海。代。あ。れ。が  
 け。り。の。中。し。か。ら。の。ま。の。か。



東山堂印

双林寺

けき、園阿と人の海をたまたみ、  
まろのわろそひありて、  
あり。双海のよとわらわら、  
波りきらののちのまに、  
あり。すすか、  
あり。石橋はあり、  
あり。花を被る、  
あり。又西の法師、  
あり。



南<sup>みなみ</sup>どうしてゆ<sup>ゆ</sup>ま<sup>ま</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>み<sup>み</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>に<sup>に</sup>か<sup>か</sup>り<sup>り</sup>だ<sup>だ</sup>り<sup>り</sup>び<sup>び</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>  
 ち<sup>ち</sup>ほ<sup>ほ</sup>の<sup>の</sup>水<sup>みづ</sup>乃<sup>の</sup>方<sup>かた</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>也<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>  
 た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>じ<sup>じ</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>八<sup>やち</sup>坂<sup>さか</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>  
 け<sup>け</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>聖<sup>せい</sup>徳<sup>とく</sup>ち<sup>ち</sup>子<sup>こ</sup>乃<sup>の</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>  
 天<sup>てん</sup>磨<sup>ま</sup>乃<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>居<sup>い</sup>も<sup>も</sup>乃<sup>の</sup>津<sup>つ</sup>花<sup>はな</sup>け<sup>け</sup>も<sup>も</sup>り<sup>り</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>塔<sup>たつた</sup>の<sup>の</sup>  
 玉<sup>たま</sup>珠<sup>じゆ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>塔<sup>たつた</sup>乃<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>  
 こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>  
 い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>  
 塔<sup>たつた</sup>乃<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>  
 あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>



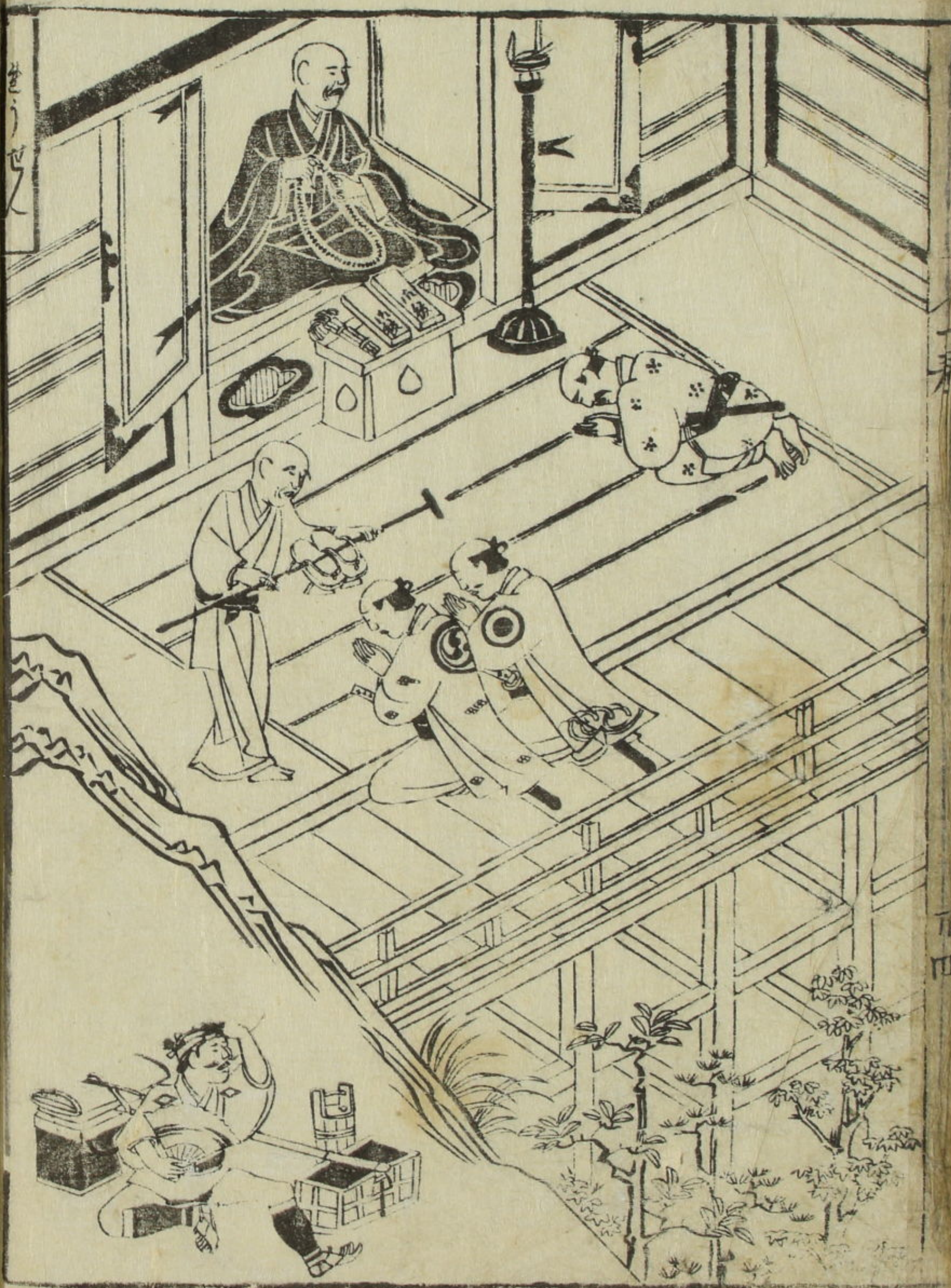


やまのふもとの

りととらひて。又津流けもにかりらるゝおぬと  
 く敷十人もの。津流けいのうをきとて。いふに  
 あり。いふ。いふ。の。かま。まの。いふ。に。あり。たら  
 け。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
 いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
 いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
 いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
 いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
 いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
 いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
 いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
 いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。  
 いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

花のこより。塔より。あやられぬ。一日





さん福ん坂又さん福の坂を云

あどさん福ん坂といふは大同と云ふよりありて  
 ぶゆいといふ坂といふありしり。又さやと云ふ  
 塔りつべきたる坂ありゆ。産寧坂といふも  
 あり。産寧といふは。寧んを。いことか。いざう  
 きのきりし一理いゆあり。

このころさうい  
 産寧といふ  
 名はかろ

のま



泰舟のちのちのちのち

とありあゝ人の意のつらさ  
又目のりしれ人乃意をゆらさ  
うもろる海屋ざりしきまといゆん  
たじし丸のほねくまゝあんの何  
あんのまうわりし  
丹前老乃坂

ありそむ

ふしそむ

こゝ

お母さん

お母さん

お母さん

お母さん

お母さん

お母さん

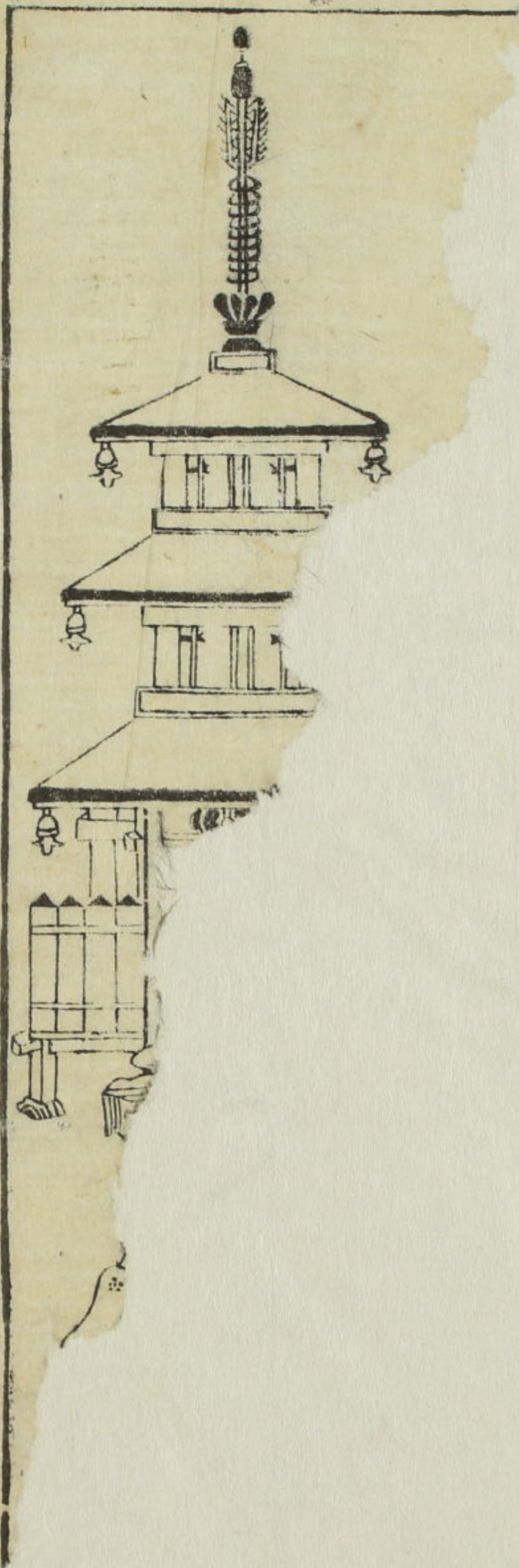
お母さん

お母さん

お母さん

お母さん

お母さん



夏  
遊  
七  
日

即此  
行

丙  
月  
廿  
日  
書  
之



